

痔に対する「痛くない」新しい注射療法（内痔核硬化療法）

痔の治療はどうしても「切って治す」とか「痛い手術」のイメージがありますので二の足を踏まれる人が多いのが現状ですが、当院ではいぼ痔に対して注射療法を行っており、従来なら手術が必要ないぼ痔でも切らずに治せる機会も増えてきました。

この治療は数年前より始まった新しい治療法で、兵庫県下でも行っているのは限られた施設です。

（対象）

注射療法が対象になるのはいわゆる「いぼ痔」と呼ばれる内痔核で、排便時に「いぼ」が脱出するなどの症状のある人がよい対象となります。対象外となるのは外痔核や痔ろう・切れ痔・肛門ポリープを伴うなどの症状がある人です。安全性の点で、子供や妊婦、授乳中の女性、透析患者さんにも勧められません。

（方法）

使用する薬は「内痔核硬化療法剤」（商品名ジオン）というもので、麻酔で括約筋を緩めた後、痔核1個につき4か所に注射し、薬剤が全体に行き渡るようにします。注射に要する時間は10分から20分程度。主成分である硫酸アルミニウムカリウムが、炎症を起こしたクッション部分を繊維化させ硬くさせます。すると、緩んでいたクッションが縮み元の位置に戻るという仕組みです。痔核の中を流れる血液量も減少し、出血が止まります。注射後1週間から1ヶ月ほどで、痔核が肛門から出なくなります。

（利点）

この注射療法は、痔核を切り取る手術に比べ、治療後の痛みや出血が少なく、平均入院期間も大幅に短縮されます。当院では1泊2日の入院が標準です。治療費も手術に比べて少なく経済的負担も大きく軽減されます。ただ、痔核を除去するわけではありませんので、再発率は手術に比べ高くなりますが、再発しても再度注射できる利点があります。

（施行医師）

この注射療法には、医師の技術も要求されます。薬が適切な場所に届かないと直腸の筋層が壊死し、炎症などが起きる恐れがあるからです。そのため知識やトレーニングが必要で、専門医でつくる「内痔核治療研究会」の講習を受け、認可を受けた医師だけ（当院では水谷医師）が、この薬を使用できるようになっています。勿論、治療には保険が適用されます。